

決算説明会

2018年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2018年2月7日

1Q-3Q累計連結業績ハイライト

売上高、営業利益、経常利益、純利益
すべてが1Q-3Q累計期間として過去最高

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期	前年比 伸び率	2018年3月期通期	
	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計		11月時予想	達成率
売上高	442,508	654,927	+48.0%	810,000	80.9%
営業利益	34,715	64,389	+85.5%	73,000	88.2%
経常利益	34,772	64,515	+85.5%	72,000	89.6%
親会社株主に帰属する 純利益	24,912	51,555	2.1倍	57,000	90.4%
一株当たり 純利益 (円)	66.46	122.40	+84.2%	135.51	90.3%

為替レート	17/3期 1Q-3Q	18/3期 1Q-3Q
US\$	106.92円	111.68円
ユーロ	118.73円	127.88円
タイバーツ	3.04円	3.32円
人民元	16.06円	16.55円

3Q連結業績ハイライト

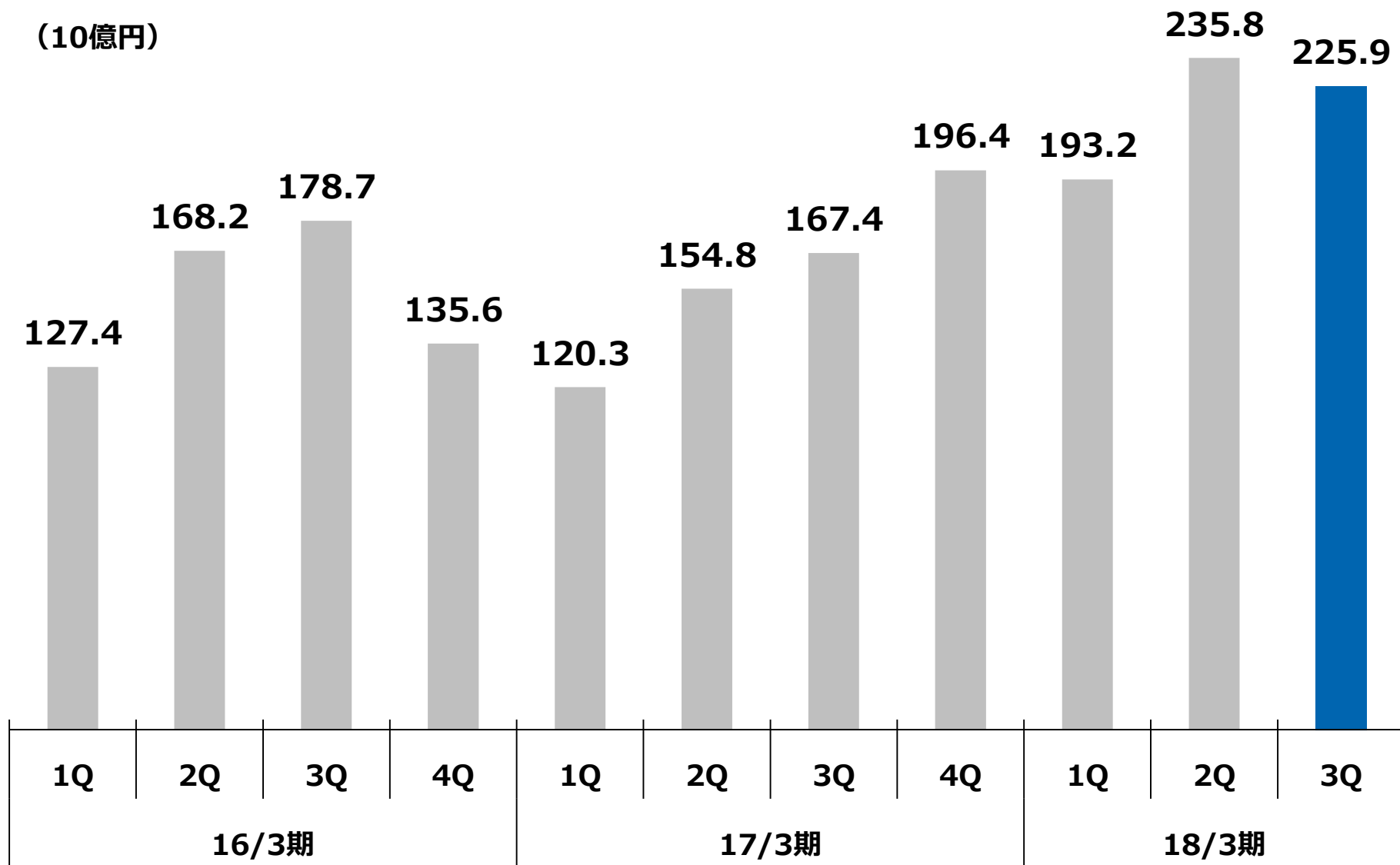
売上高、営業利益、経常利益、純利益
すべてが3Qとして過去最高

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	167,375	235,823	225,900	+35.0%	-4.2%
営業利益	16,120	24,889	22,437	+39.2%	-9.9%
経常利益	15,857	24,789	22,353	+41.0%	-9.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,167	20,095	17,278	+42.0%	-14.0%
一株当たり 四半期純利益 (円)	32.44	47.72	41.22	+27.1%	-13.6%

為替レート	17/3期3Q	18/3期2Q	18/3期3Q
US\$	106.13円	110.92円	112.65円
ユーロ	116.04円	129.65円	132.47円
タイバーツ	3.02円	3.31円	3.41円
人民元	15.62円	16.53円	16.95円

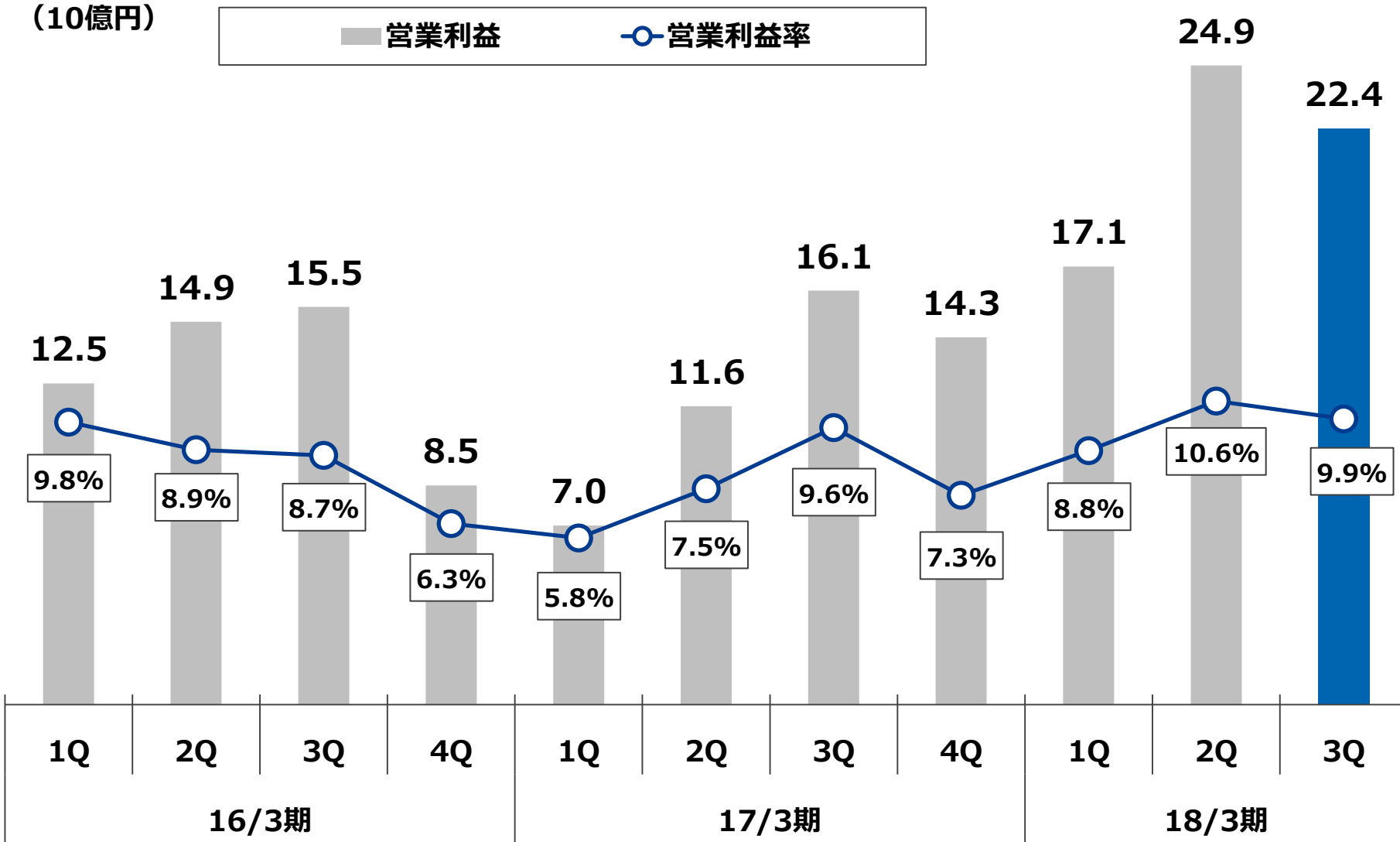
第3四半期として過去最高を大幅に更新

(10億円)

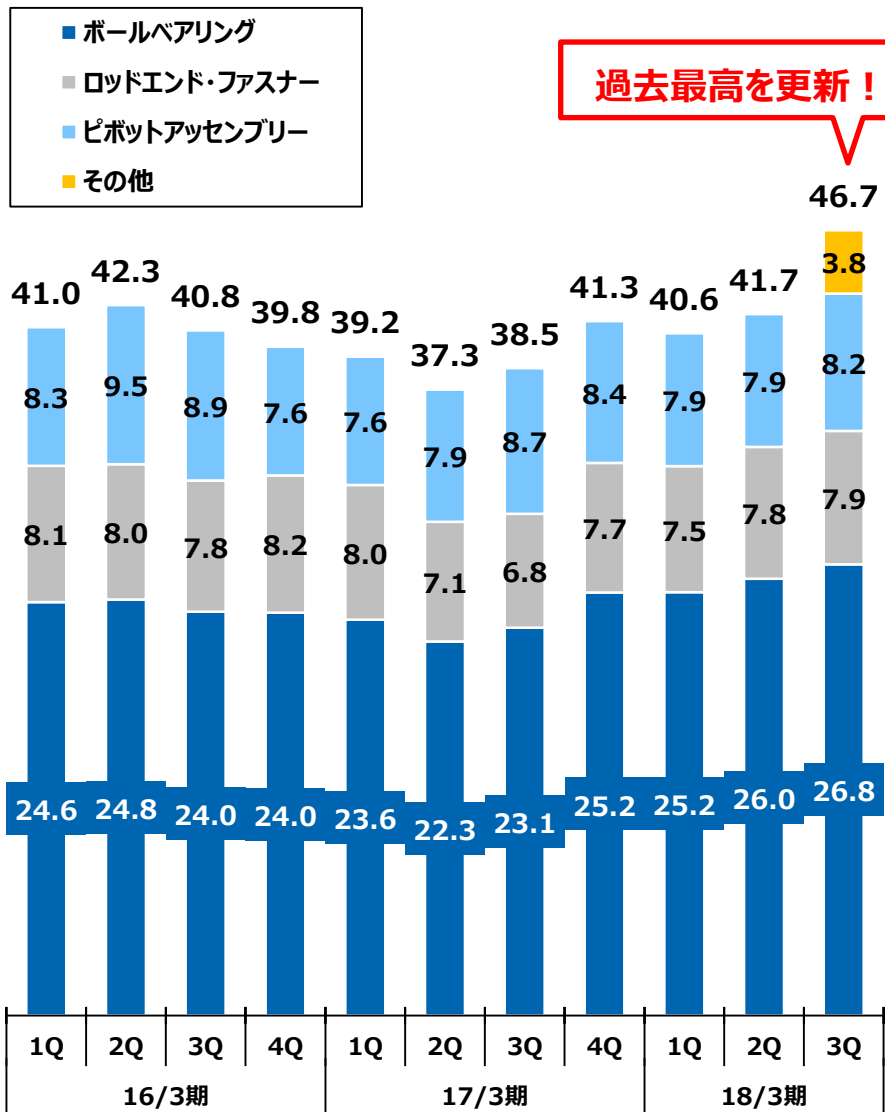


第3四半期として過去最高を大幅に更新

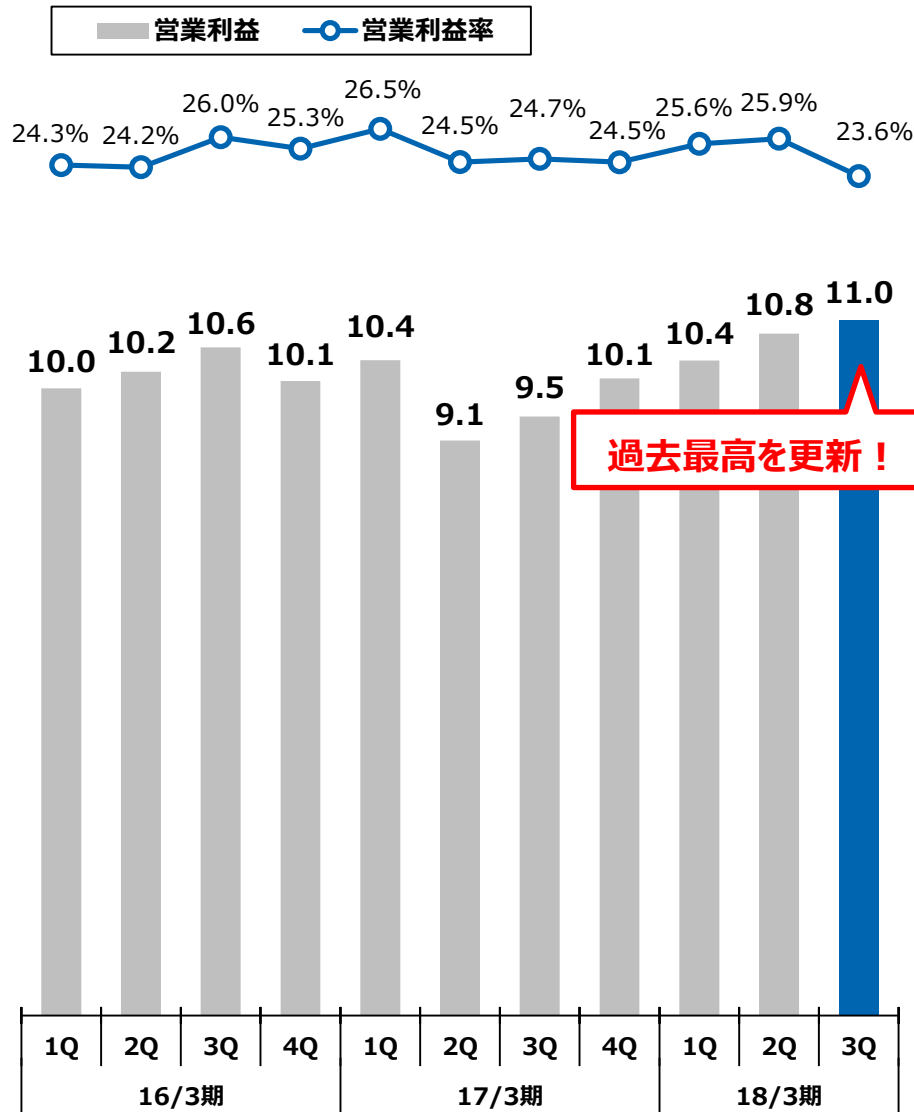
(10億円)



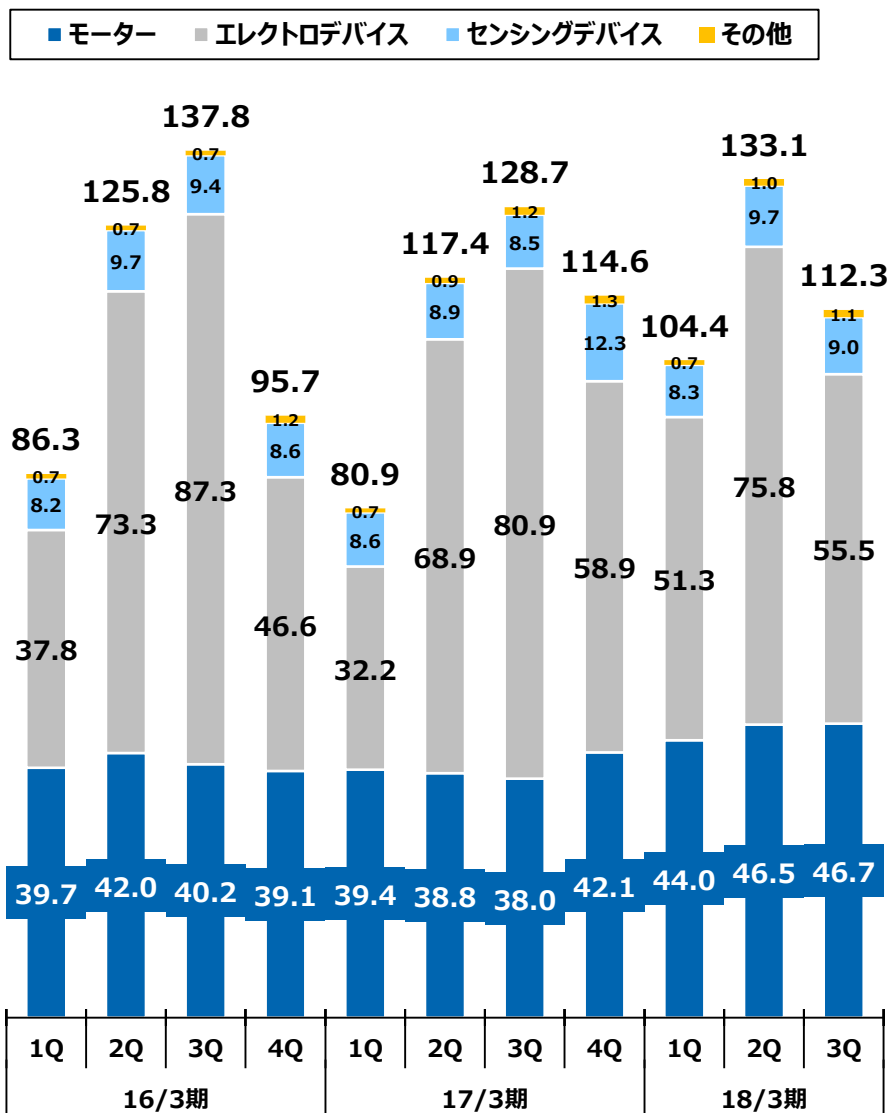
売上高 (10億円)



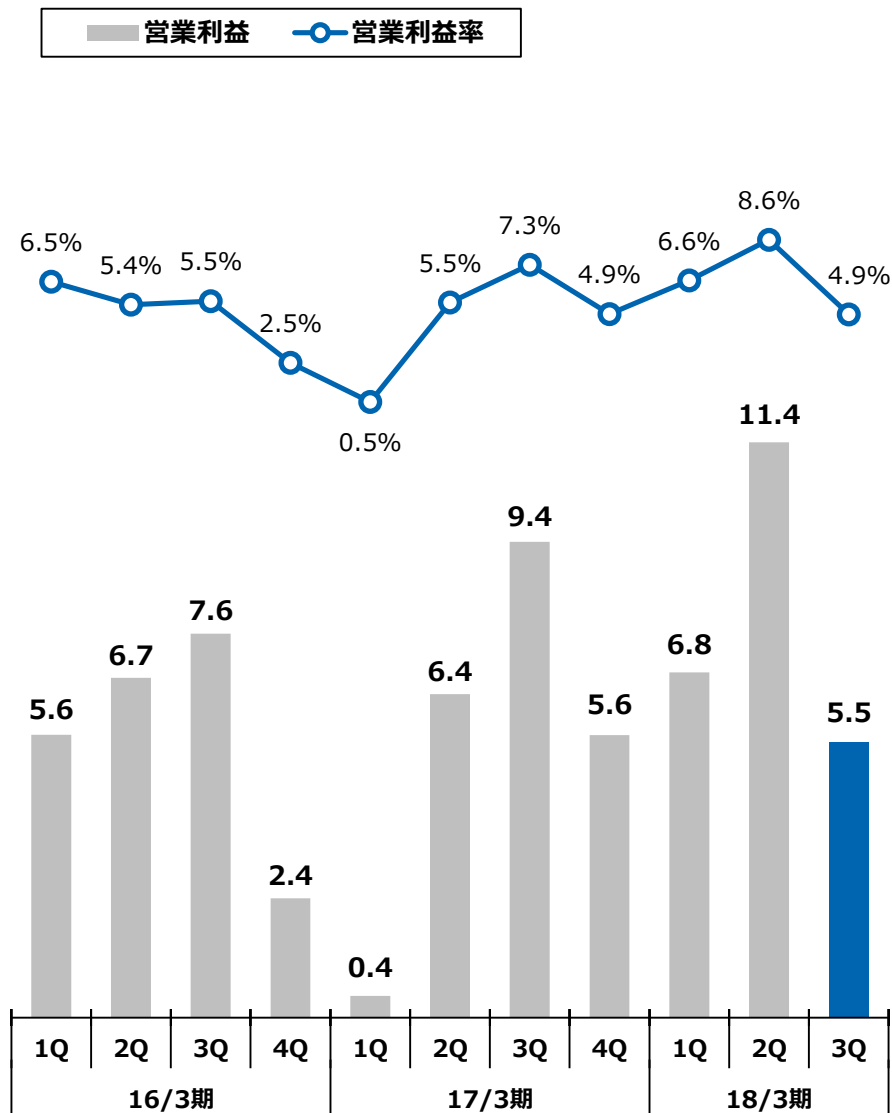
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



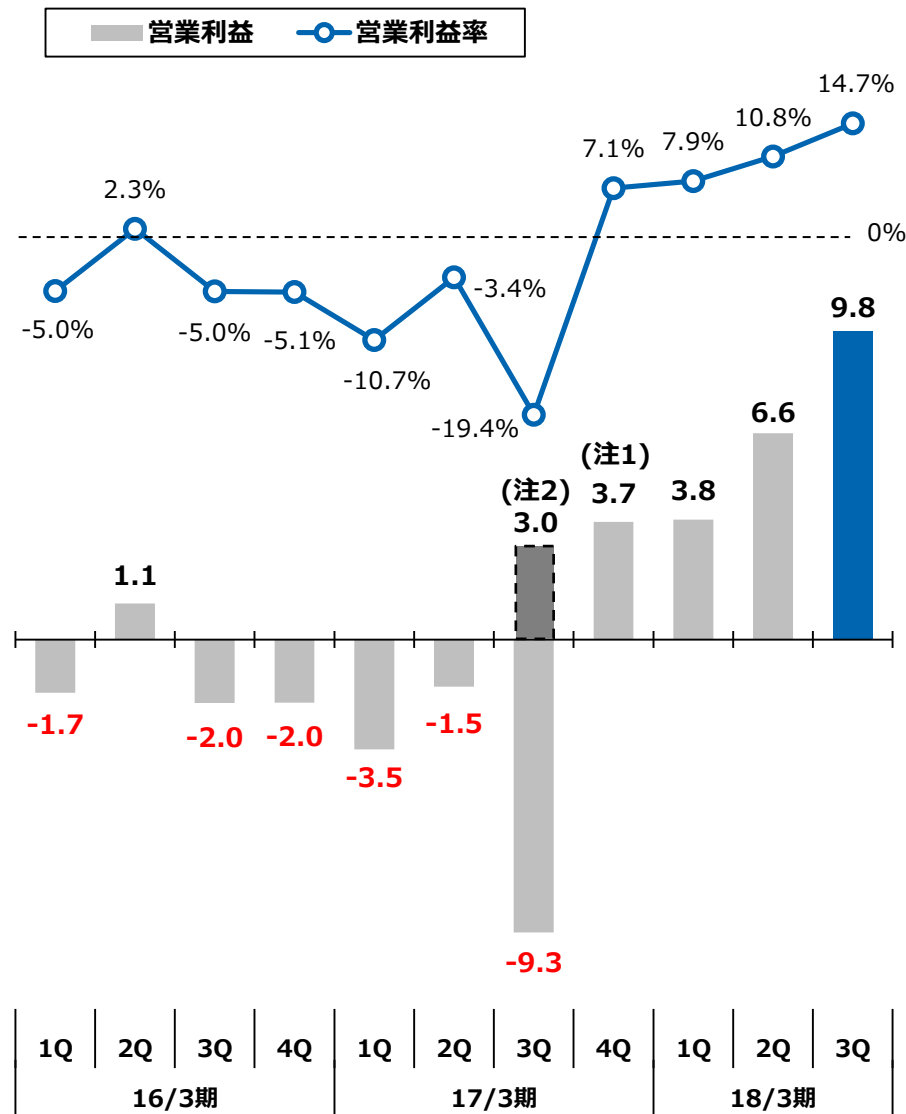
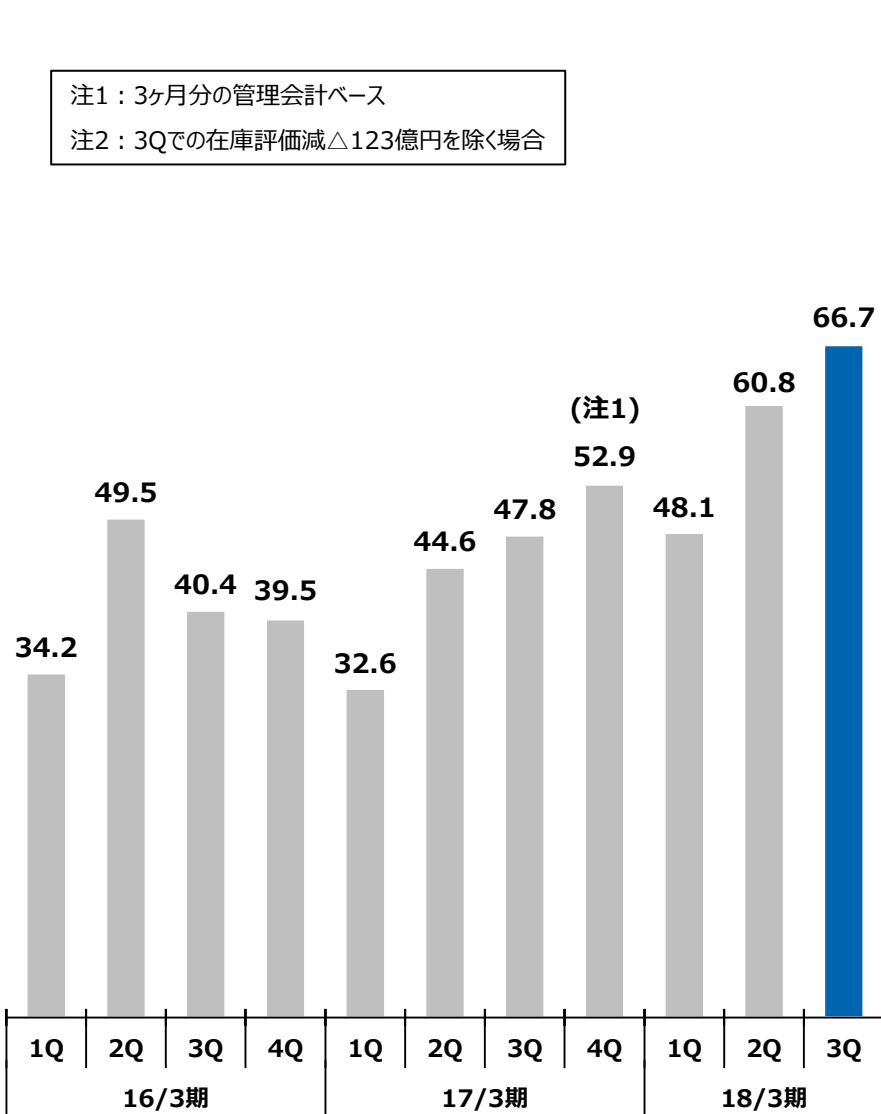
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)

注1：3ヶ月分の管理会計ベース
注2：3Qでの在庫評価減△123億円を除く場合

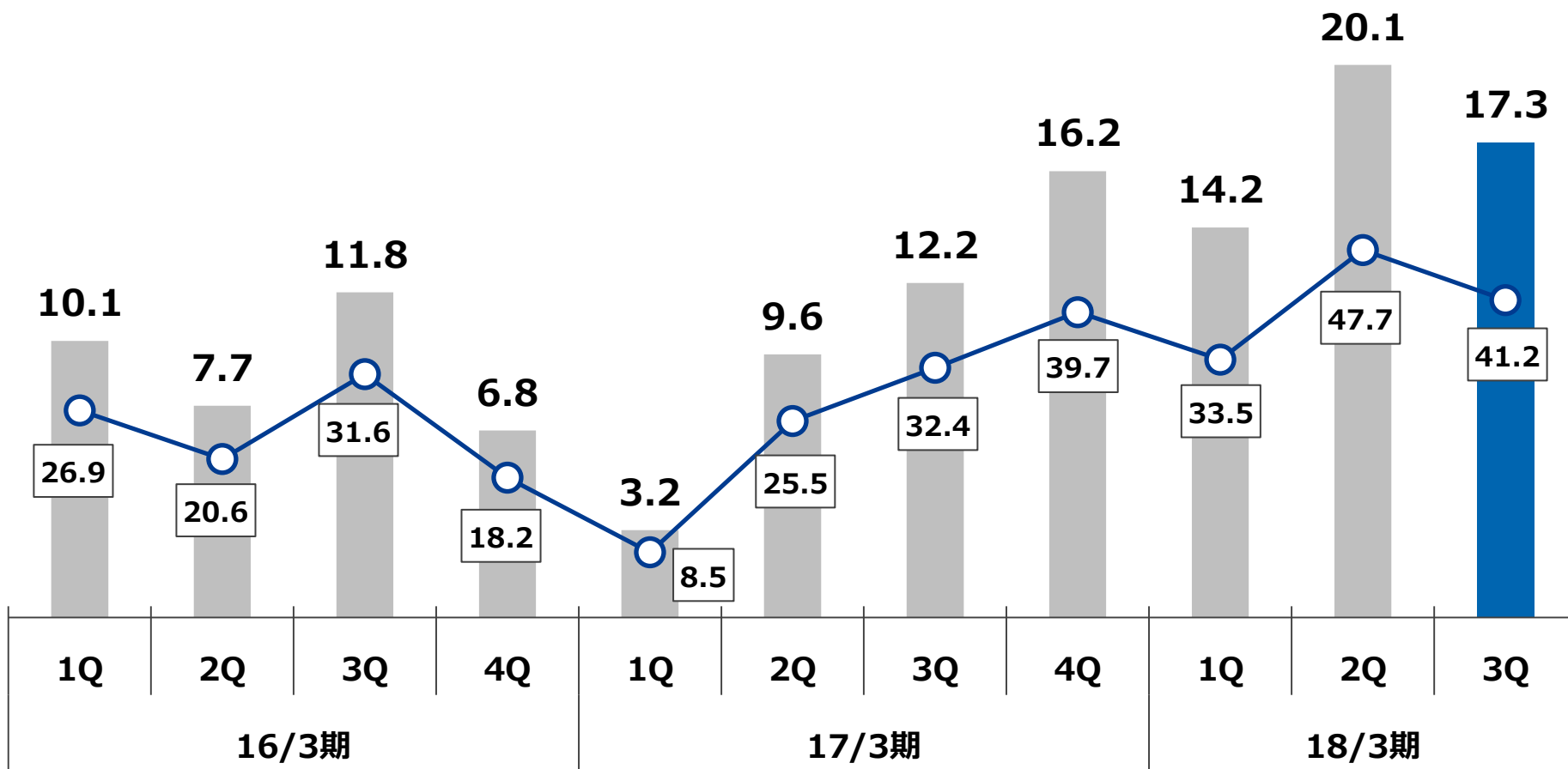


6四半期連続で前年同期比増益

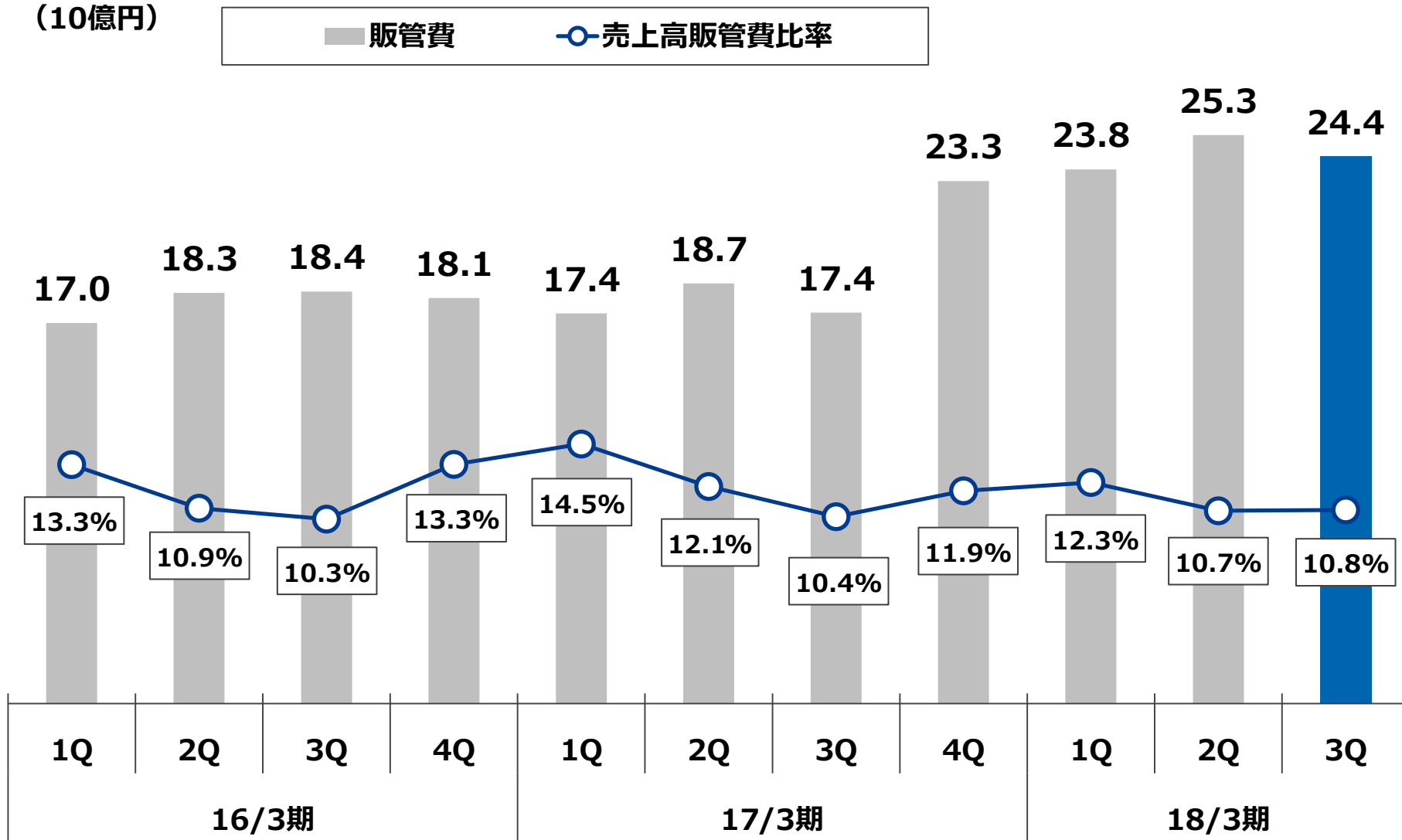
(10億円)

■ 親会社株主に帰属する純利益

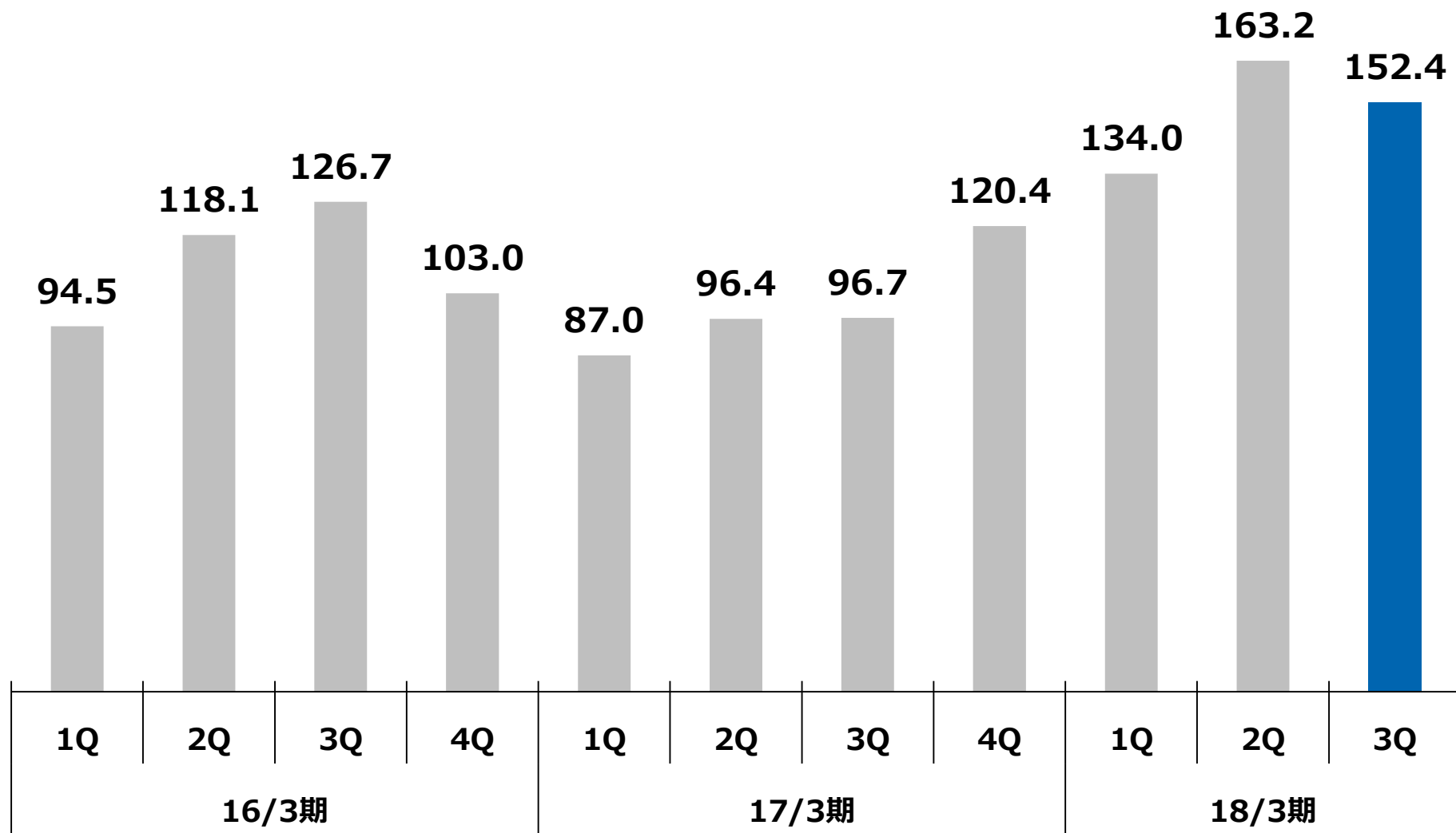
○ 1株当たり純利益 (円)



(10億円)



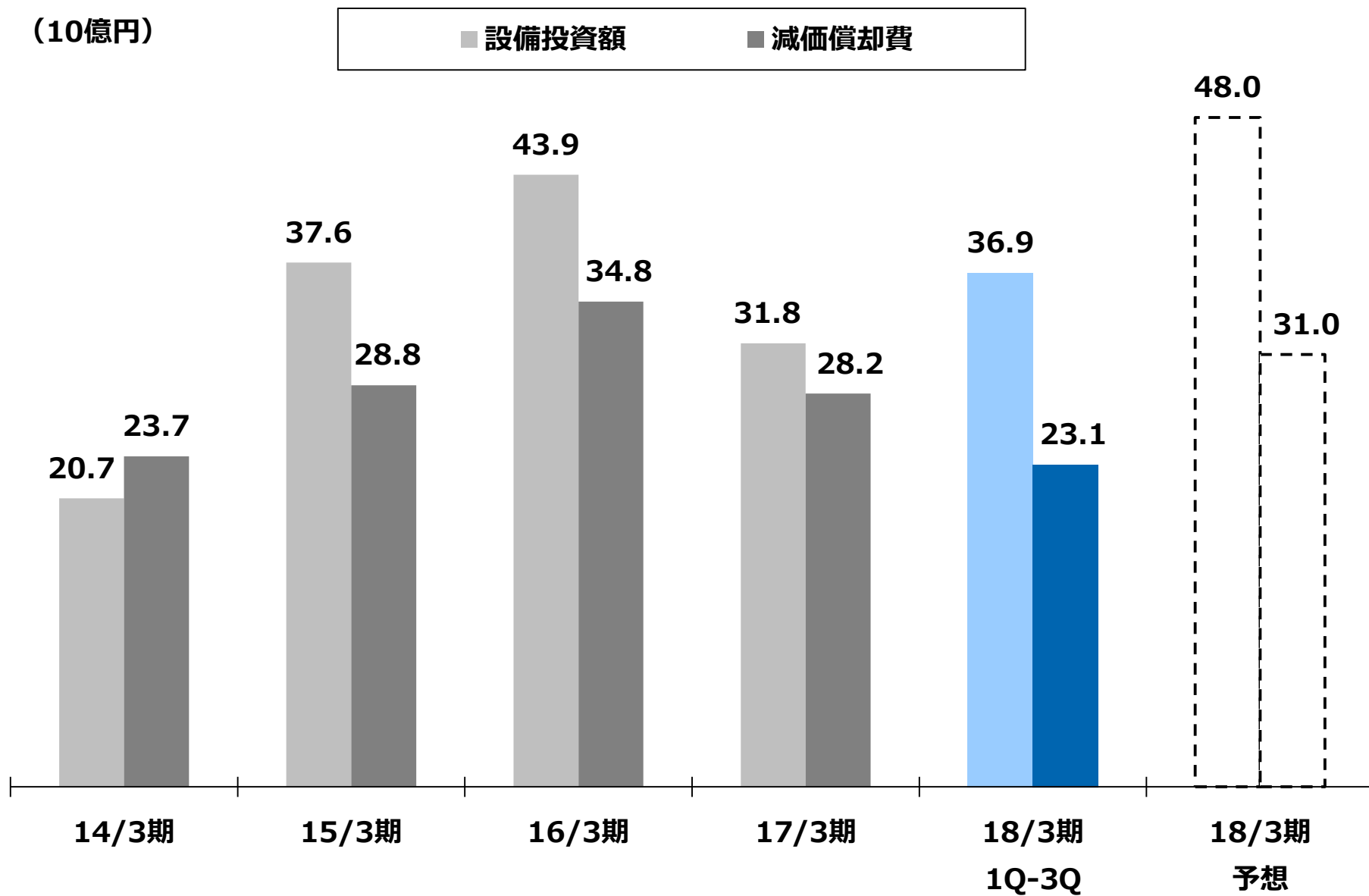
(10億円)



設備投資額・減価償却費

年推移

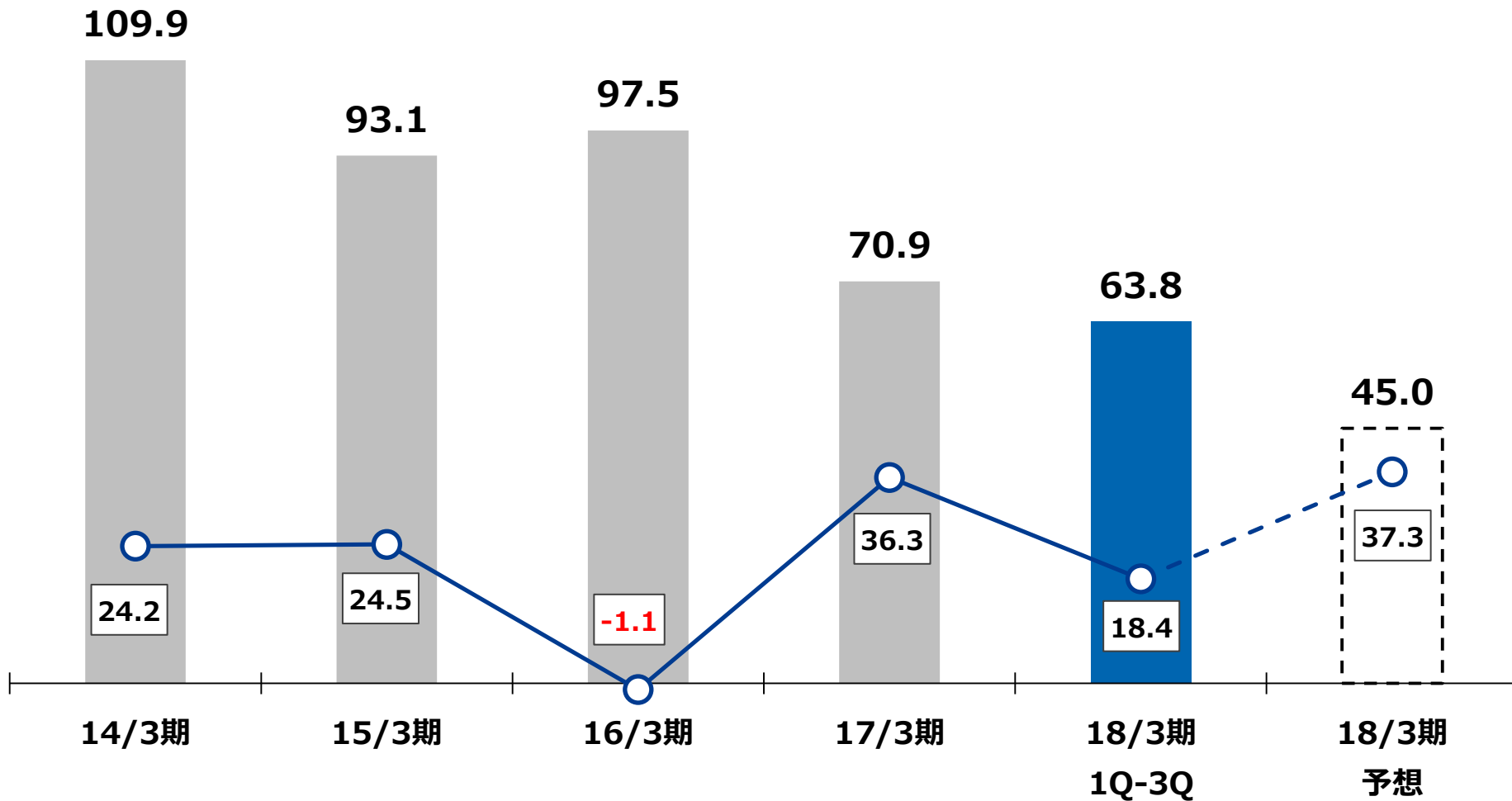
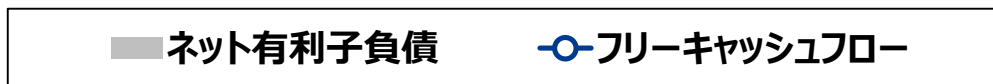
(10億円)



ネット有利子負債とフリーキャッシュフロー

年推移

(10億円)



売上高、営業利益、経常利益、純利益は すべて過去最高を大幅に更新

(百万円)	2017年3月期		2018年3月期			
	通期	1Q-3Q累計	4Q予想	通期修正予想	前期比	11月時予想
売上高	638,926	654,927	195,073	850,000	+33.0%	810,000
営業利益	49,015	64,389	15,611	80,000	+63.2%	73,000
経常利益	48,393	64,515	14,985	79,500	+64.3%	72,000
親会社株主に帰属する 純利益	41,146	51,555	10,445	62,000	+50.7%	57,000
一株当たり 純利益 (円)	107.33	122.40	24.97	147.37	+37.3%	135.51

為替レート	17/3期 通期	18/3期 1Q-3Q平均	18/3期 4Q想定	18/3期 通期想定
US\$	108.76円	111.68円	110.00円	111.26円
ユーロ	119.34円	127.88円	135.00円	129.66円
タイバーツ	3.09円	3.32円	3.50円	3.37円
人民元	16.18円	16.55円	17.25円	16.73円

セグメント別業績予想

(百万円)	2017年3月期		2018年3月期			
	通期	1Q-3Q累計	4Q予想	通期修正予想	前期比	11月時予想
売上高	638,926	654,927	195,073	850,000	+33.0%	810,000
機械加工品	156,310	129,101	44,899	174,000	+11.3%	163,000
電子機器	441,615	349,764	98,236	448,000	+1.4%	418,000
ミツミ事業	40,342	175,551	51,849	227,400	5.6倍	228,400
その他	658	510	90	600	-8.8%	600
営業利益	49,015	64,389	15,611	80,000	+63.2%	73,000
機械加工品	39,147	32,263	11,437	43,700	+11.6%	42,500
電子機器	21,898	23,734	6,266	30,000	+37.0%	27,500
ミツミ事業	2,315	20,135	3,065	23,200	10.0倍	20,000
その他	△120	△145	△255	△400	3.3倍	△400
調整額	△14,223	△11,597	△4,903	△16,500	+16.0%	△16,600

	17/3期 実績		18/3期 実績/予想
中間配当	7円/株	→	13円/株
期末配当	7円/株	→	13 [*] 円/株
合計	14円/株	→	26 [*] 円/株

自社株買いを含めた総還元性向^{**}は約30%

* 18/3期の期末配当は、当期の業績を勘案した上で連結配当性向20%程度を目処に決定の予定

** 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得総額) ÷ 当期純利益

ボールベアリングは次なる成長ステージへ

数量

外販

生産

今期は3回過去最高を更新、年率9%以上で成長中
⇒1月は2億900万個を達成！

生産性改善で月を追うごとに増加中

⇒増産投資分を加えると来期は3億個を超える生産体制へ！

～需要をけん引する4つの風～

自動車

データセンター

高級家電

小型ロボット

内販と合わせた来期の総販売数量は、
期初から2億8,000万個でスタート！

ボールベアリング外販数量（百万個/月）



コスト

工場ごとの生産品目を最適化させることで発生する段取り替え費用や
輸送費等の一過性費用は第4四半期から解消へ

⇒来期のボールベアリングの収益性は大幅改善へ！

価格

価格政策の見直し（数量重視から品質要求加味へ）で適正な収益性を確保

⇒基幹部品向けや高品質品は、その付加価値に合わせた価格へ

来期成長への道筋は不変

ボールベアリング

期初（4月）から収益性大幅改善

ロッドエンド

生産性改善とファスナー（航空機用メカパーツ）の改善

ゲーム機器

期初（4月）から力強い需要を見込む

スマホ向け部品

来期の市場拡大と中国向け拡販
（LEDバックライトは来期も堅調の見通し）

モーター

今期売上1,800億円超え、来期も車載向けを中心に堅調に推移
多数の新製品投入

変化に強い強靱な製品ポートフォリオで 来期も大幅な成長！

当社の持続的成長を可能とする源泉－ESGへの取り組み

社会からの要請にこたえ、ESG活動を推進し 当社は持続的に成長いたします

重要なESG課題

当社グループの取り組みの例

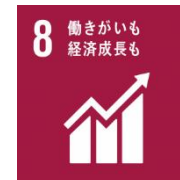
関連する主なSDGs*項目

(環境) E

地球温暖化
自然資源
廃棄物管理
環境市場機会

- ・ボールベアリング、高性能モーター、LEDバックライト等の環境配慮型製品によるCO₂排出抑制に貢献
- ・JCMによるスマート街路灯設置による新興国のインフラ整備
- ・工場廃水ゼロシステムの実現
- ・あらゆる技術を導入した究極の省エネ工場
- ・雨水再利用装置、河川水浄化システムの導入
- ・バイオガスプラントで生ごみを有効利用

上海工場排水処理センター



(社会) S

人的資源
製品の安全
社会市場機会

- ・グローバルでの女性活躍の推進
- ・新興国における若年労働者の大量雇用と初等教育学校の運営
⇒農業従事者を新産業に向け、国家の発展に貢献
- ・ミネベアミツミグループ紛争鉱物対応ポリシーの運用

女性活躍指数の例

- ・全従業員に占める女性比率 69%
- ・管理職に占める女性比率 18%
- ・新規採用者に占める女性比率 75%
- (グループ全体、2017年12月末時点)



(ガバナンス) G

コーポレートガバナンス
内部統制
企業行動
ステークホルダーに対する責任

- ・株主、投資家の皆様とトップマネジメントとのエンゲージメント推進
- ・グローバルでのリスクマネジメント体制構築 (BCP訓練実施を含む)
- ・グローバルでのコンプライアンス体制構築 (内部監査実施を含む)

コンプライアンス推進の施策例

- ・コンプライアンス研修 (独禁法遵守、贈収賄防止、情報セキュリティ等) の実施
- ・役員、従業員へのコンプライアンス意識調査の実施



* SDGs : Sustainable Development Goals
2015年9月の国連サミットで採択された、2030年を期限とする 17の目標。

Passion to Create Value through Difference

常識を超えた「違い」で新しい価値をつくる



世界最小ハンドスピナー*1

*1: Smallest fidget spinner、認定日：2017年11月14日、認定数値：5.09mm



世界最長ハンドスピナー*2

*2: Longest duration spinning a fidget spinner on one finger、認定日：2017年12月11日、認定数値：24分46.34秒



本資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。